マリア

葉藻阪　松園

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
マリア

【Ｎコード】
Ｎ５４５８ＢＡ

【作者名】
葉藻阪　松園

【あらすじ】
元日本人の男が異世界で精霊を育てる話。

第一話：マリアと出会う

俺は、藤沢章２４歳からアシル・ド・アルザス４歳になった。

半年前まで、地球の日本と言う場所で、まだまだ2年目の下っ端の会社員をやっていたのだが、気がついたら子供になっていたのだ。会社帰りに、信号無視の車に轢かれたところまでは記憶があるのだが…。

最初は結構大変だった。

おそらくだけど、病気かなんかで倒れていたのか、無駄に豪華なベットで目を覚ました瞬間にアシル母が飛びついてきてワンワン泣くし、医者っぽい人は驚愕の表情、メイドさんも驚いて叫びながら同僚呼びに行くしで…、それでわらわら人が集まって来て、混沌とした状況だった。ちなみに俺が一番驚いていいはずなんだけど、あり得なさ過ぎて夢かと思ってたから適当にボーっとしてた。

覚めない夢だったけど…。

意味が分からず、状況理解して、頭整理するまでまるまる一週間かかった。

だって、いきなり子供だぜ。

しかも、知らない土地で、知らない人に囲まれて、その上知らない言葉…。

まぁ、今ではだいぶ吹っ切れて、この世界を満喫している。

周りの人いい人ばっかりだからね…。

気持ちの整理がついた後は、とりあえず、適当にニコニコしながら、うんうん頷いて、少しずつ言葉を覚えていった。

”ママ”、”ご飯”、”眠い”、”お休み”、”精霊”、”ありがとう”、”ごめん”。

一個変なのが混じっているって？

いや、合ってるよ。

ここには精霊が、存在するのだ。

全ての人間に一体ずつ。

ご主人さまって呼んでくる従者みたいな奴なんだけど、火を吐いたり、水を出したりするやつもいるらしいので、日本語では”精霊”と呼ぶのが妥当かなと…。

その辺は意見の分かれるところではあると思うけど。

実は、言葉を覚えるために絵本を読んでもらっていたんだけど、人間とセットで必ず精霊が出てくるんだよね。

姿形は、ドラゴンやら騎士やら巨人やらといろいろあるけれど…。

てっきりお伽噺と思っていたんだが…。

しかも、精霊は、霊体化したり、実体化したりできるのよ。

まぁ、だから、最初は気付かなかったんだけど…。

アシル母（以下、母上と呼ぼう、俺の方が年上だけど）がトカゲもどきを出して初めてその存在を知ったのだ。

あんぐりだよ。俺は。あんぐり。

だっていきなり何もないところから、2メートル位のトカゲもどき出現だよ。しかも母親の命令通りに器用に鞄運び手伝ってるし…。その上、喋ってる。トカゲの癖に…。

ちなみに俺にもバケツくらいの大きさの青色でぷにぷにな不定形の精霊さんがいる。

まだしゃべれないけど…。

”というか、それ、ぶっちゃけスライムだろ…”、といわないで欲しい。

俺のかわいい相棒なんだから。

俺にもいるのかなと思った瞬間、ぽよぽよの精霊さんが出現だよ。

どうやらこいつ等、主人の考えてることが分かるらしい。

まぁ、最初見た時は驚いた。

目の前にスライムいきなり現れて、首に纏わりついて来たのだから。

驚いて飛びあがったら、マリアも驚いて、部屋の隅まで逃げていった。

マリアっていうのは、俺の精霊さんの名前で、現在の俺の体の元持

ち主が自分の精霊に”マリア”と名付けてたらしいから、俺もそう呼ぶことにした。ちなみに、”マリア”は、こちらでは有名な絵本”れんごくのきし”に出てくるお姫様の名前だ。

その日、マリアはずっと俺から着かず離れずの絶妙な距離で俺についてくるだけで、特に何もしてこなかった。

最初は、マリアを警戒してたけど、階段転げ落ちてフラフラするスライム見たら途中で馬鹿らしくなって、寝る前に呼んでその日は一緒のベットで寝た。
他の人たちがマリアに気づいたら撫でてあげてたし…、まぁ、大丈夫かなと…。

一度信頼すればかわいいものだ。四六時中一緒にいる。特に暑くて寝付けない時とかは、冷たくって気持ちいいんだよね。

そんな俺とマリアの一日が今日も始まる。

第二話：マリアが走る

現在、マリアと絶賛鬼ごっこ中のアシル・ド・アルザス４歳だ。

どうやら、どんな精霊でも最初は、マリアみたいな不定形らしい。ただし、形態は変化できるので、主人が想像する姿にだんだんと近づいていくみたいだ。トカゲモドキやら、鳥モドキやら、人間モドキに。

大抵の場合は、自分の親と同じ形の精霊を想像するので、親子で精霊の形は似てくるらしい。

ちなみに４歳ともなると、かなり動物に近くなっているはずなのだが、俺の精霊は赤ちゃん状態のスライムのままだ。

メイド達の会話を盗み聞きしながら、こそこそとスパイ活動した結果、病弱でずっと寝込んでいたアシル君が余り精霊を構っていなかったので、幼児退行したのではと大人たちは解釈しているようだ。

精霊が幼児退行って…。

まあ、俺の考えでは、お亡くなりになったアシル君の体に、偽アシルの俺が憑依した時に新しく赤ちゃん精霊が生まれたんだと思うのだが、どちらが正しいのかは分からない。

まぁ、アシル君のためにも、マリアを含めできるだけこの家に住んでいる人たちを幸せにしなければと、改めて思う。

ということで、心配させないためにも、まずは、マリアの４足歩行の練習も兼ねて二人（一人と一体？）で鬼ごっこをしているのだ。

４足歩行といっても青色のスライムが四つ突起を出してよたよたと歩いているだけで、いわゆる赤ちゃんはいはいだ。
当然、スピードが遅く、いくら４歳の俺でもすぐに追いつくので、手加減はしている。
ただ、精霊の成長は速いらしく、目に見えてはいはいが速くなっていくので、結構楽しい。
最初は、パタパタ倒れていたんだけど、暫くするとこけなくなったし、階段もはいはいで登れるようになった。
追いかけるふりをしながら、階段から落ちないかハラハラ上を見上げていたけども…。

書斎、調理場、応接間、寝室、玄関と走り回って、俺の方が疲れてきたのでいったん休憩。

精霊は疲れというものを知らないらしい。寝ることもしないみたいだし…。

とりあえず、俺は本を読みながら、マリアには二本の突起で立つ練習をさせることにした。

さすがにすぐにはうまくいかないのか、何度もコテンと倒れている。
その様子が気になって、俺の方は本を読むのがなかなか進まない。
こいつを見てると癒されるのだ。
いきなり知らない世界で何とかやっていけてるのは、こいつの存在が大きいのかもしれない。

ああ、そうそう、話は変わるが、調理場なんてあることから予測はつくと思うけれど、実は、この家めちゃくちゃでかい。まぁ、３０部屋くらいあるのだ。
なぜこんなに大気ないのかと思っていたのだが、どうやら一度も会ったことのない俺の父親は、伯爵様だということが最近分かった。

そうこの世界は貴族がいる王政社会だ。

ただし、俺の母上は４人目の奥さんで、正妻でもないし、その上、平民出身、だから俺には相続するのもは何もない。母上は亡くなるまでは今の暮らしは保障されるみたいだし、俺も成人するまでここに住んでいいようだが。
それにしても、現在、母上含め５人の女がいる俺の親父は、相当エロ親父だと思う。

まぁ、メイドの話を聞く限り、無理やり平民を手籠に…なんてことはないらしく、ナンパはするのだが断られそうな空気を察知したらすぐに身を引くらしい。
顔はイケメンでかなり気障ったらしい親爺だが、他の領主と比べると理不尽に平民を殴ったりすることはないので、それなりに慕われてはいるようだ。

貴族としての誇りや理想像みたいなのを持っているようで、優雅な振る舞いを目指しているらしく、良くいえば劇場の俳優みたい、悪くいえば機械仕掛けの人形（マリオネット）みたいとのこと。

まぁ、少し芝居がかった親爺なのだろう。

結婚する前は、母上にも毎日花と手紙を送り続けたらしいし。
今でも送られてくるが…。

母上も満更でもないみたいで、花が送られてきた時は、鼻歌歌いながら花瓶に花を生けた後、手紙を読んでいる。
母上ちょっとロマンチストな所あるしな…。

そういえば、今日もバラっぽいものが届いていた。
おそらく親爺だろう。
さっきマリアを追いかけて、母上の寝室に入った時も”お部屋の中では、走っちゃだめよ”と言いながらも、滅茶苦茶機嫌が良かったし。

まぁ、こっちでの俺の家族はそんな感じだ。

あっ、マリアがまた倒れた。
う～ん。二足歩行への道は険しそうだ。

そういや、マリアをどんな容姿にさせようか。

ドラゴンにすべきか、ピカチ○ウにすべきか、マキバ○ーにすべきか、ガ○ダムにすべきか…。エヴ○ンゲリオンも捨てがたい。
なんかスライムのままでもいいのでは？と思ったのだが、相続権がないとはいえ伯爵の息子がスライム状態のままだと世間への体裁が悪いらしい。
それに爵位はないが、一応俺、貴族だし…。

まぁ、おいおい考えていけばいいか。

よし、今日はマリアの歩行練習はこの位にして、次は発声練習をさせようか。
俺の会話の練習にもなるし、早くマリアと話がしてみたいしな。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5458ba/

マリア

2012年1月14日23時52分発行